

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 先 第 387 号	氏 名	今井 洋太
審査委員	主査 武藤 裕則 副査 山中 英生 副査 鎌田 磨人		
学位論文題目 水田が有する洪水緩和機能と生物多様性保持機能の創発可能性			
審査結果の要旨 <p>近年、洪水の一時貯留地としての水田を活用しつつ、流域治水へと転じていくことが必要となっている。この時、水田の洪水緩和機能を発揮させることをとおして、水辺生物の多様性を維持・向上させうると期待される。本研究は、水田が有する洪水緩和機能および生物多様性保持機能を空間階層的に評価し、地図化することで、それら機能を同時に発揮させることが可能であることを示したものである。</p> <p>論文では、1)日本の国土全域で水田を活用して流域治水に取り組んでいくべき地域を示し、それら地域が希少鳥類であるナベヅルの餌場適地と重なること、2)氾濫原域で発展してきた小集落では、氾濫域が水田として活用されることで災害リスクを減じてきたこと、また、その水田では多くの絶滅危惧植物が生育していること（徳島県海陽町四方原集落）、3)耕作放棄され植生遷移が進むことにより、一時貯留量が減少し、下流に位置する集落の災害リスクを高めること（長崎県対馬市志多留集落）、4)地域住民の活動によって放棄水田から再生された湿地では、活動によって創られた微地形に対応した植物群落が生じ、生物多様性が保持されること、その湿地の貯水機能を発揮させることで集落の安全度を高めていること（兵庫県豊岡市田結集落）を明らかにした。これらの結果から、水田の洪水緩和機能と生物多様性保持機能を同時に発揮させることが可能であること、また、行政による河川整備が進みにくい小集落では、それら機能を同時に発揮させつつ地域づくりに役立てていくことが可能であることが示された。</p> <p>流域治水の進めるうえの水田の位置づけを提示した本研究は、今後の社会実装に寄与するものであり、博士（工学）の学位授与に値するものと判定する。</p> <p>なお、本論文の審査には、渡辺公次郎准教授の協力を得た。</p>			